

第64次 教育研究福井県集会

総括報告

「響心」～響かせよう心に、響き合おう心で～

2014年11月8日(土)、勝山市立勝山南部中学校を会場として、第64次教育研究福井県集会が開催されました。組合員、保護者、退職組合員等約690名が県内各地より参加しました。

全体会では、県教組 中谷忠裕執行委員長が、地域発展のための教育の果たす役割と教育研究集会の目的や意義について挨拶させていただいた後、梅田幸重勝山市教育委員会教育長様より歓迎の言葉をいただきました。

その後の「地球のステージ」の公演は、世界の美しい風景の映像と桑山さんの澄み渡る歌声で始まりました。紛争・災害・貧困の地でボランティアとして活動した桑山さんのメッセージは、参加者の心に響きました。

午後は専門職豊かな講師の方々を招いて、ワークショップを中心とした参加型の12の分科会を開催し、研修を行いました。以下、全体会での公演、各分科会の総括を報告します。



委員長挨拶

五月に日本創世会議が、このまま大都市へ人が流出し続ければ二〇四〇年には自治体の五割で若い女性が半減し、やがて消滅してしまうというショッキングなデータを公表しました。それ以来、人口減少を止めるための様々な議論が起こり、施策が打ち出されつつあります。この根本原因は、少子高齢化が進んでいることにあり、食い止めるための即効薬はなかなか見あたりません。しかし、人口減少が進めば経済の活力を失ってしまうという悲観的なムードに流され、諦めていては地域の活力は一層失われていきます。

地域経済を活性化するために、かつては工場の誘致が行われていましたが、グローバル経済の影響から、企業の生産拠点が海外へ移り、工場が撤退して大きなダメージを受け

る地域も出てきました。これからの地域を支えるには、外からの企業誘致ではなく域内での会社を興すことと、そのために必要な人材育成が必要ではないでしょうか。現在でも福井県を見れば、地域の中で確かな技を持ちローカル経済を引っばっている企業が数多くあります。

それらの企業を支えているのは、地元で育った人材です。ユニークな発想とアイデアで、大企業にはまねできない技術力を持っている中小企業があります。

製品を創造する力は、会社の中の研究やコミュニケーションの場で鍛えられてきます。それに耐えられるためには、専門的な知識はもちろんですが、幅広い経験や雑学を含めた教養が必要でしょう。そして何より、学んで創り出そうとする「やる気」が求められます。

学校の間で行われる教育活動にも通じることです。多様な個性と才能をもつ子どもたちが集う学校では、画一的な物差しで評価してしまえば、その可能性を掴みかねません。

基礎基本の定着を前提として、一人ひとりの良さを引き出す多様性と柔軟性が学校には必要です。一部の教科でテストを行い、その平均点により学校で行われている教育活動を